

ポスター

## ポスター13 標準化

2018年11月24日(土) 15:20 ~ 16:20 J会場(ポスター) (2F 多目的ホール)

### [3-J-3-5] 多職種連携のための略語辞書の作成

○渡邊 佳代<sup>1</sup>, 武内 裕美<sup>2</sup>, 秋山 祐治<sup>1</sup>, 和田 秀穂<sup>3</sup>, 岡田 美保子<sup>4</sup> (1.川崎医療福祉大学 医療情報学科, 2.川崎医科大学 附属病院 医療資料部, 3.川崎医科大学 血液内科学, 4.一般社団法人医療データ活用基盤整備機構)

【はじめに】川崎医科大学附属病院では、電子カルテにおける診療記録の記載率および質の向上を目指して、2015年に「電子カルテ時代の POMRガイドブック」を発行し、診療記録の記載ルールを明確にした。そのガイドブックについて多職種に対しアンケート調査を実施したところ、略語使用のルールを明確にしてほしいとの要望があった。また、各記録の閲覧率については、他職種の記録についても高い割合で閲覧していることが分かった。そこで、診療記録に記載されている略語を調査し、略語を入力すると日本語訳等に変換できる略語辞書の作成を目的として研究を行った。【方法】調査対象の診療記録は、2015年1～12月の第2月曜に保存した医師の経過記録36188件と退院時要約649件、対診記録976件である。その記録に記載されている略語を目視及び「MeCab」+「ComeJisyo」で抽出し、診療科ごとに略語と日本語訳の対応表を作成し、各診療科のチャート・レビュー担当医に使用を希望する略語を調査した。その結果から略語を入力し変換すると、「半角略語」、「日本語訳」、「フルスペル」が変換対象として表示される略語辞書（MS-IMEシステム辞書）をそれぞれ作成した。「半角略語」には、ユーザコメントとして略語のフルスペル等を登録した。また、病名については「略語（日本語訳）」が表示される略語辞書も作成した。【結果】5診療科についてそれぞれの略語辞書を作成し端末へ登録した。件数は「半角略語533件」、「日本語訳556件」、「フルスペル538件」、「略語（日本語訳）83件」である。【考察】同じ略語で日本語訳が異なるもの、日本語訳が同じで略語表記が異なるもの等があるため、意味を取り違える可能性が考えられる。本略語辞書を導入することにより、入力負担軽減から略語の使用が減少し、理解しやすい診療記録になると考える。今後は、全診療科のデータを用いて略語辞書を作成し、使用者の声をもとによりよい略語辞書に改良したいと考える。

## 多職種連携のための略語辞書の作成

渡邊佳代<sup>\*1,2</sup>、武内裕美<sup>\*2</sup>、秋山祐治<sup>\*1,2</sup>、和田秀穂<sup>\*3</sup>、岡田美保子<sup>\*4</sup>

\*1 川崎医療福祉大学 医療情報学科、\*2 川崎医科大学附属病院 医療資料部、  
\*3 川崎医科大学 血液内科学、\*4 一般社団法人医療データ活用基盤整備機構

### Creating A List of Medical Abbreviations for Interprofessional Work

Kayo Watanabe <sup>\*1,2</sup>, Hiromi Takeuchi <sup>\*2</sup>, Yuji Akiyama <sup>\*1,2</sup>, Hideho Wada <sup>\*3</sup>, Mihoko Okada <sup>\*4</sup>

\*1 Department of Health Informatics, Kawasaki University of Medical Welfare,

\*2 Department of Health Information Resource Management, Kawasaki Medical School Hospital,

\*3 Division of Hematology, Department of Medicine, Kawasaki Medical School,

\*4 Institute of Health Data Infrastructure for All

#### Abstract:

Healthcare professionals need to understand medical records written by doctors and other medical staff correctly for patient-centered interprofessional collaborative practice. In our institution, medical abbreviations appear frequently in the medical records, which does not fit for interprofessional collaborative care. We have made a research on the use of appreciations in medical records written by doctors and developed an abbreviations dictionary that enables translation to Japanese accompanied by full spelling. The abbreviation dictionary will decrease burdens on clinicians and contribute to understandings of the medical records among different healthcare professionals with different roles.

**Keywords:** Medical Abbreviations, Interprofessional Work, Electronic Medical Records

#### 1. 緒論

診療記録は多職種連携のもとよりよい医療を行う上で非常に重要であり、患者個々の診療に生かせる正確な記載とその記載内容の情報共有が求められている。情報共有を意識した記載としては、診療科や職種により異なる意味を持つ略語の使用は、正確な理解の妨げになる可能性があるため好ましくない。そのために、診療科ごとに使用略語を調査し使用可能な略語集を作成する病院<sup>1)2)</sup>や電子カルテの診療記録からアルファベットで表記された用語や略語を抽出し、病院で使用可能とする略語に絞り込むことで略語集を作成する病院<sup>3)</sup>がある。また、略語検出ツールを導入し、施設として定められ、現代的観点から他科・他施設・他職種でも理解できるとして認められたもの以外の略語を使用している事例をピックアップし「伝達性欠落」としてフィードバックする取り組み<sup>4)</sup>もなされている。

川崎医科大学附属病院では、電子カルテにおける診療記録の記載率および質の向上を目指して、2015年に「電子カルテ時代の POMR ガイドブック」を発行し、診療記録の記載ルールを明確にした。そのガイドブックについて多職種に対しアンケート調査を実施したところ、略語使用のルールを明確にしてほしいとの要望があった。ガイドブックでは、「①記載者以外の他の医療従事者または患者にもわかるように、できるだけ日本語で記載する、②一般的でない略語、不適切な略語等は使用しない、③診療科、専門領域が違っても全く違う意味になる略語の使用は好ましくない」と明記しているだけで、使用可能な略語を具体的に示していない。

また、電子カルテシステム上で診療記録がどの程度共有されているか調査するため、医師や看護師などメディカルスタッフを対象に、どの職種のどの記録を閲覧しているか聞いたところ、閲覧率の高い順に医師の経過記録 87%、看護師の看護記録 79%、医師の患者背景 78%と、他職種の記録についても高い割合で閲覧していることが分かった。<sup>5)</sup>

#### 2. 目的

患者を中心とした多職種連携には、各職種が記載した診療記録を正確に読み取る必要があるが、当院の診療記録は略語が多用され、他職種や他施設が見ることを意識した記録とはいえない。そこで今回は、医師が記載した診療記録の略語を調査し、略語を入力すると日本語訳等に変換できる略語辞書の作成を目的とした。また、今回略語辞書に登録した略語を用いて、川崎医科大学附属病院で平成 4 年に作成された院内略語集の改訂を行った。

#### 3. 方法

調査対象データは、2015 年 1~12 月の第 2 月曜に保存した医師の経過記録 36188 件と対診記録 976 件、退院時要約 649 件から抽出した表 1 の抽出項目のデータである。

表 1 対象記録および件数、略語の抽出項目と抽出方法

件数	抽出項目	抽出方法
◆経過記録 (Progress Note)		
36188 件	文書開始日、文書診療科、文書の<診療記録文書>タグ内の情報	形態素解析用のフリーソフト「MeCab」とその辞書「ComeJisyo」を用いて抽出
◆対診記録 (Consultation Sheet)		
976 件	文書形態名、依頼科名、依頼日時、依頼内容、回答内容	目視により抽出
◆退院時要約 (Discharge Summary)		
649 件	診療科、最終診断名、手術名、経過、退院後治療	目視により抽出

そのデータから、経過記録については「MeCab」と「ComeJisyo」を用いて略語を抽出し、対診記録と退院時要約

は目視で略語を抽出した。診療科ごとに、抽出した略語と日本語訳およびフルスペルの対応表を作成した。作成した対応表を用いて、各診療科のチャート・レビュー担当医に使用する略語を調査した。

その調査結果から、電子カルテシステム上で略語を入力し変換すると、「半角略語」、「日本語訳」、「フルスペル」が変換対象として表示される略語辞書(MS-IME システム辞書)をそれぞれ作成した。略語辞書には、入力用語(よみ)と表示用語(単語)、品詞、ユーザコメントを登録した。「半角略語」には、ユーザコメントとして略語のフルスペルや意味等を登録した。また、病名については「略語(日本語訳)」が表示される略語辞書も作成した。さらに、略語辞書に登録した略語を用いて、院内略語集を改訂した。院内略語集には、略語とその日本語訳とフルスペルを掲載した。掲載方法は、略語の ABC 順と、診療科ごとの略語の ABC 順の 2 種類とした。

## 4. 結果

### 4.1 略語辞書について

図 1 のとおり、ひらがなモードで略語を入力し変換すると、半角の略語と日本語訳、フルスペル、略語(日本語訳)が記載されたものが、変換対象として表示されるようにした。また、使用を希望する略語を調査した結果、各診療科で用いられている略語には、同じ略語でも異なる日本語訳のものや、同じ日本語訳でも異なる表現の略語が存在した。しかし、全ての診療科で使用を希望している略語と日本語訳について、全て MS-IME のシステム辞書に登録することとした。また、変換対象のうち略語については、そのフルスペルや意味等をユーザコメントに表示させた。

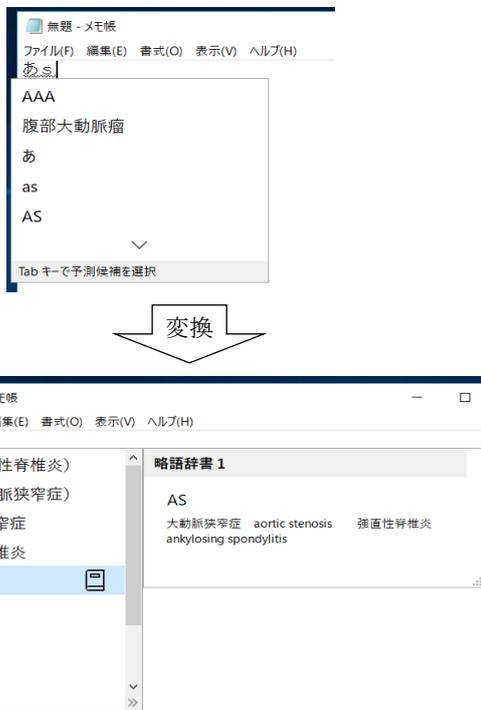


図 1 ひらがなモードで「aaa」と入力し変換した画面

現在、5 診療科のデータについて略語辞書の作成が終了し、MS-IME のシステム辞書に登録した。登録したシステム辞書とデータ件数は、表 2 のとおりである。辞書の副作用に対する配慮として、システム辞書を 4 種類に分けた。その 4 種類

を、登録した用語が変換対象として「①常に表示される辞書」と、「②選択した時のみ表示される辞書」に分け、端末ごとに設定できるようにした。今回はフルスペルのシステム辞書のみ②の設定とした。

表 2 略語辞書

辞書名	件数	登録項目
半角略語	533 件	よみ:略語、単語:半角の略語、品詞、ユーザコメント:日本語訳、フルスペル等
日本語訳	556 件	よみ:略語、単語:日本語訳
略語(日本語訳)	83 件	よみ:略語、単語:半角の略語(日本語訳)
フルスペル	538 件	よみ:略語、単語:半角のフルスペル

### 4.2 院内略語集について

略語を ABC 順に掲載したリストには、581 件の略語とその日本語訳とフルスペルが掲載してある。診療科ごとに掲載したリストには、A 診療科 281 件、B 診療科 186 件、C 診療科 116 件、D 診療科 31 件、E 診療科 11 件となった。この院内略語集は、院内のポータルサイトから PDF 形式で掲載予定である。

## 5. 考察と結論

現在は、5 診療科のデータについて作成が終了しているが、残りの診療科からも調査結果が届いているので、5 診療科と同様の方法で略語辞書を作成し、完成後には、実際の電子カルテシステム端末へ導入する予定である。診療科が異なる場合や職種が異なる場合で、用いられる略語に違いがあり、特に、同じ略語でも日本語訳が異なるものや、日本語訳が同じでも略語の表現が異なるものがあるため、略語で記載されている場合に、日本語訳がわからないものや意味を取り違えてしてしまうことが考えられる。本略語辞書を導入することにより、入力負担が軽減されるとともに、記録の理解が効率的に行えると考える。また、システム辞書ごとに変換候補として表示される文字種を分けたことにより、端末使用者に応じて使用頻度の高い用語を優先して表示させる等の設定が可能となった。電子カルテシステム端末への導入後には、実際に使用した医師やメディカルスタッフからの要望や評価を得て、さらに使いやすい略語辞書に改良したいと考えている。

なお、本研究は、平成 28 年度川崎医療福祉大学の医療福祉研究費の補助による。

## 参考文献

- 1) 坂間美穂. 診療の質向上に向けた診療録記載マニュアルの作成. 医事業務 2015 ; 474 :10-16.
- 2) 宮田めぐみ, 小妻幸男, 中熊英貴, 江野みどり, 町田二郎, 稲富雄一郎, 堀田春美, 甲斐聖人, 副島秀久. チーム医療の推進に向けた診療記録記載ルール策定の取り組み. 診療情報管理 2015 ; 27(3):48-52.
- 3) 宮川亜弓, 岩田尚悟, 松本絵美, 篠原友映, 赤城岩夫. 院内略語集作成までの取り組みについて. 診療情報管理 2015 ; 27(2):239.
- 4) 渡邊直. 医療記録の監査. 医療情報第5版「医学・医療編」. 篠原出版新社, 2016 : 341-343.
- 5) 渡邊佳代. 情報共有のための POS の役割と教育の必要性. 日本 POS 医療学会雑誌 2017 ; 21(1):71-74.